

第42回国立大学法人奈良女子大学経営協議会議事要録

日 時 平成26年6月18日(水) 午後3時25分～午後5時30分
場 所 第一会議室(事務局管理棟3階)
出席者 今岡学長、井上理事、小路田理事、角田理事、笠井理事、
尾池委員、山川委員、山口委員、湯山委員
欠席者 井岡委員
列席者 酒居監事、福田監事、塚本総務・企画課長、小田原国際課長、大原研究協力
課長、西田財務課長、齊藤施設企画課長、藤熊学務課長、木下学生生活課長、
中窪総務・企画課課長補佐、桑原総務・企画課総務係長
議 長 今岡学長

議事に先立ち、

- (1) 学長から、今年度第1回目の協議会開催にあたり挨拶、山川新委員の紹介。
山川委員から挨拶の後、出席委員、列席監事・課長から自己紹介。
- (2) 第41回経営協議会(平成26年3月26日書面表決)記録を確認。

審議事項

1. 平成25年度決算について

笠井理事及び財務課長から、平成25年度決算(案)について、資料1-1～1-3及び資料1-5により説明の後、福田監事から資料1-4により監査報告があり、審議の結果、これを承認した。

なお、委員から、以下の質問があり、学長及び財務課長から説明があった。

- ・資産見返負債とは。
- ・運営費交付金債務の入学者超過による国庫返還分とは。

2. 平成25事業年度に係る業務の実績報告について

学長から、平成24事業年度業務実績報告書(案)の全体概要及び特記事項について、資料2-1及び2-2により説明があり、審議の結果、文言修正等については学長に一任することとして、これを承認した。

なお、委員から、以下の質問があり、学長から説明があった。

- ・女性教員比率はどれくらいか。

3. 平成27年度概算要求事項について

学長から、平成27年度の概算要求事項(施設整備費補助金等を含む)について、資料3-1及び3-2により説明の後、最終の要求事項の調整及び要求順位の決定等については学長に一任願いたいとの提案があり、審議の結果、これを承認した。

4. 業務方法書の変更について

笠井理事から、業務方法書の変更理由・内容について、資料4により説明があり、審議の結果、これを承認した。

5. 役員の平成26年6月期に支給する勤勉手当の勤務成績評価について

学長から、平成25年12月2日以降の役員の勤務状況について報告の後、国立大学法人奈良女子大学役員給与規程に基づく勤勉手当の成績率の取扱いについて、資料5により説明があった。引続き、学長から、6月期に支給する役員の勤勉手当の勤務成績評価について諮られ、審議の結果、次のとおり成績率を決定した。

今岡学長	100分の62.9
井上理事	100分の62.9
小路田理事	100分の72.5
角田理事	100分の62.9
笠井理事	100分の72.5

6. 学長選考会議委員の選出について

学長から、学長選考会議委員の選出について、資料6-1～6-3により説明の後、検討課題の審議が継続していることから、井岡委員、尾池委員、山口委員、湯山委員に引続きお願いしたいとの提案があり、審議の結果、これを承認した。

報告事項

1. 平成25年度実施大学機関別認証評価結果について

学長から、平成25年度に受審した大学機関別認証評価の結果について、資料7により報告があり、井上理事から、優れた点及び改善を要する点として挙げられた事項について説明があった。

なお、委員から、以下の質問があり、井上理事から説明があった。

- ・国際交流に関しての評価はどうだったか。

2. ミッションの再定義について

学長から、文部科学省が公表した本学のミッションの再定義の結果について、資料8により報告があった。

3. 本学の機能強化に向けた戦略について

学長から、5月7日に実施された文部科学省との機能強化等に関する意見交換会において説明した国立大学改革強化推進補助金事業に申請予定の計画等本学の機能強化に向けた戦略について、資料9により報告があった。

4. 授業料免除枠予算における「教育改善推進枠」への対応について

学長から、授業料免除枠予算総額の一部に、新たに「教育改善推進枠」が設けられたことについて、資料10-1により説明があった。

引続き、笠井理事から、それへの対応として検討している戦略的基金の設置及び環境整備費の徴収について、資料10-2及び10-3により報告があった。また、図書資料の利用料や施設の使用料の増額も検討しているとの報告があった。

5. 国立大学を取り巻く最近の動向について

学長から、国立大学を取り巻く政府及び文部科学省の動向について、国立大学協会近畿地区支部会議(5月19日開催)、国立大学協会総会(6月16日開催)での審議事項(資料11-1～11-5)により報告があった。

6. 稲葉カヨ氏からの寄附金の受入れについて

学長から、本学卒業生で2014年「ロレアル-ユネスコ女性科学賞」を受賞された稲葉カヨ氏から賞金の一部を本学学生の育成のために寄付したいとの申出があったこと及び寄附金の活用方法等について、資料12により報告があった。

なお、委員から、以下の意見があった。

- ・もっとPRをし、このことを活用して寄附金を集めるように。

7. 本学のおもな現状について

学長から、次の事項について報告があった。

- (1) 女性職員比率の現状：資料13-1
- (2) 科学研究費補助金採択件数等の推移：資料13-2
- (3) 平成26年度入学者選抜状況：資料13-3
- (4) 平成25年度卒業・修了者の進路状況：資料13-4

8. その他

(1) 学長から、本学に関連する新聞報道記事について、資料14により報告があった。

(2) 委員から、次の発言があった。

- ・外国人研究者を招聘する場合、給与(年俸額)の多寡も要件ではあるが、家族帯同する若手研究者にとっては子どもの教育環境(英語で授業する学校)等も大きな要件となる。給与が高額でなくても教育環境や住居が整えば若手は来る可能性があるので近隣の学校や宿舍の状況を調査することも必要である。
- ・以前より教職関係への就職は広き門になりつつあるが、近年の本学の就職状況をみると教職に就く者が少ない。教職課程を強化し、教職に強い大学というイメージ付けも必要ではないか。

以上